

# IMF サーベイ

## IMF 専務理事、アジアにおける

## IMF のイメージの転換に取り組む

### IMF サーベイ

2010年7月12日



韓国大田市で開催されたアジア 21 会議。ストロスカーン IMF 専務理事を迎えた対話集会には、200 人以上の学生が参加した（写真 Stephen Jaffe /IMF）

- ストロスカーン専務理事、アジアのダイナミズムについて取り上げるとともに、IMF に対する負の記憶の払拭に取り組む
- IMF 内に多様性を持たせることの重要性を強調
- IMF 専務理事、職業として経済を選択した理由を明かす

この度の対話集会には韓国全土から学生が集まった。手にマイクを握り、壇上を大まかで歩きながら、メモを持たず自由に話す IMF 専務理事は、明らかに楽しみながら、普段と違う若い聴衆の心をつかんでいた。

韓国大田市で開催された[アジア 21 会議](#)で、200 人以上の高校生及び大学生の聴衆を前に演説を行なったドミニク・ストロスカーン専務理事は、アジア危機という難しいテーマを正面から取り上げるとともに、187 カ国が加盟する IMF におけるアジア加盟国の重要性について述べた。また、職業として経済を選択した理由を述べるなど、一個人としての側面をのぞかせた。

ストロスカーン専務理事は、10 年以上前に発生したアジア危機の際に、アジア各国政府を支援する過程で、IMF 融資に付随した多くの条件により IMF に対する負の記憶が生じたことを認めた一方で、経済の原動力へと変貌した活力あふれるアジアは、未来に目を向ける必要があると述べた。

ストロスカーン専務理事は「（アジア諸国が）IMF に対し憤りを覚えているとしても理解することができる。今なら分かる多くのことが、当時は分からなかったのだ」と述べた。「今後に関心を向け、アジア諸国と IMF が未来に向け協力するための方策を探る時が来たのである」

アジアは他の多くの地域と比較し、この度の世界金融危機を上手く切り抜けた。会議に出席したアジアの経済学者は、アジア危機の時から始まった改革が、アジアを一層頑健なものとする上で有益であったと述べた。

### IMF 内に多様性を反映させる

西洋文化が支配的であることから IMF を「悪者」と位置づけた大学生からの質問に対し、ストロスカーン専務理事は、IMF の助言が各国の状況に見合ったものとなる為には、世界経済の文化の多様性に即した組織となることが肝要だと述べた。

同専務理事は「その国の歴史及び政情に関する知識無しに、困難を伴う経済プログラムを実施することは不可能だ。外部から全く知識を持たずにやって来れば、失敗する可能性は高い」と述べた。

ストロスカーン専務理事は、かつての IMF は先進国が支配的であったかもしれないと認めたとえ、世界経済におけるアジア地域の重要性の高まりを反映させるべく、IMF はガバナンス及び代表権の問題に取り組んでいると述べた。また、この度の危機の際に見られた、中国、インド、及び日本などによる IMF の財源の強化における多大な貢献を指摘した。

ストロスカーン専務理事は「アジア諸国には IMF を第二のホームだと認識してもらいたい。IMF を自身の機関だと思ってもらいたい」と述べた。

### 豊富な知識

多くの質問の中で最も意外だったものは、ウズベキスタンからの留学生による母国ウズベキスタンの今後の見通しに関する質問であった。ストロスカーン専務理事はユーモラスな笑みを浮かべながら「韓国の大田市でウズベキスタンについて質問されるとは思わなかった」と述べると同時に、同国の大統領の名前を挙げながら大統領との会見を振り返り、内陸国であるウズベキスタンの最も差し迫った課題の一つとして水へのアクセスについて語るなど、中央アジアのウズベキスタンの経済情勢に関する豊富な知識で聴衆を感心させた。

また、フランスの元経済財政大臣であるストロスカーン専務理事は、数学を専攻している学生からの質問に対し、経済を選択した理由として、単に他に出来る事がなかったからだとユーモラスに説明し、会場全体から笑いを誘った。

「恐らく数学を専攻するほど得意ではない。父親が弁護士だったので、弁護士にはなりたくなかった。医学でも良かったが血が怖い.....芸術的センスがないので、文学や絵画を学ぶのはまるで無理。そこで結局『経済学』の欄に印を付けた」

同専務理事はパリ政治学院で経済学教授として教壇に立っていたが、研究分野として経済学を専攻した理由として、自身の未来をコントロールし、また自身が住む環境に影響を与えるようになりたかったからだと説明した。



韓国大田市で開催されたアジア 21 会議で、ストロスカーン専務理事の話聞く学生たち  
(Stephen Jaffe/IMF)

### 聴衆を魅了する

1 時間に渡った対話集会の後、ストロスカーン専務理事は会場を去る際、携帯電話やカメラを取り出し IMF のトップと写真を撮ろうとした大勢の学生に囲まれ、数分間足止めとなった。

この度のアウトリーチ活動により、少なくとも一部の学生を納得させることはできたようだ。対話集会を終えチョウ・ソンインさんは、IMF に対する印象が変わったと述べ会場を後にした。

「IMF はお金をくれるが融資の返済を厳しく迫る、という印象があったが、ストロスカーン氏の話聞き、IMF は融資を行うだけでなく、窮地にある国の金融システムの再構築を行なっているのだと、良い印象を持つようになった」

またチョウさんは、ストロスカーン専務理事に対し「厳しい人」との印象を抱いていたが、「気さくな人」だと分かったと話した。

一方で、改善の余地があると考える学生もいた。その一人がキム・ヨンジンさんだ。「(ストロスカーン氏は) 以前と比べ韓国など多くの国を訪れているが、それでもまだ少ないと思う。今後、アジアに対する支援策を決定する際に、アジアの状況をより良く把握し政策が一層効果的なものとなるために、さらに多くのアジア諸国を訪問し、各国の文化について更に学んでもらいたい」とキムさんは話した。